



平成 15 年度パトロール報告資料

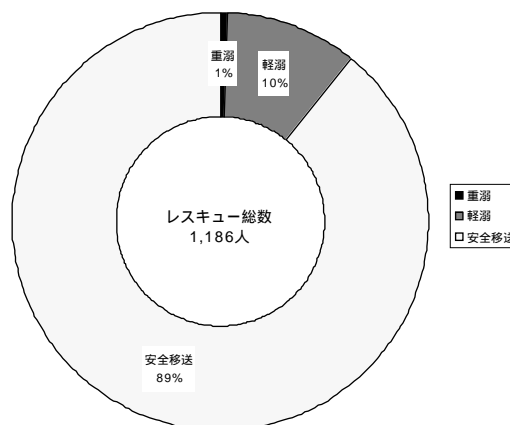
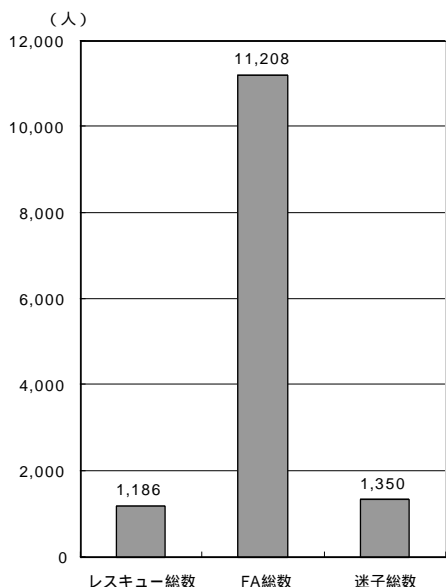


1. 概要

パトロールに関するアクシデント総数については、日本ライフセービング協会の有資格ライフセーバーたちが活動した全国 164 ヶ所の海水浴場の中、137 ヶ所の海水浴場からの集計結果をまとめたものである。(2003 年 11 月 14 日迄報告分)

内容別にアクシデント数をみると、レスキューされた人は 1,186 人、ファーストエイドを受けた人は 11,208 人、迷子になった人は 1,350 人であった。

レスキューを重症度別にみると、重溺が 1% (7 人)、軽溺が 10% (123 人)、安全移送が 89% (1,056 人)となっていた。重溺の内訳は、蘇生 71% (5 人)、死亡 14% (1 人)、不明 14% (1 人)であった。



1. 内容別アクシデント数 (人)

レスキュー総数	FA総数	迷子総数
1,186	11,208	1,350

2. 重症度別レスキュー数 (人)

レスキュー総数	重溺	軽溺	安全移送
1,186	7	123	1,056



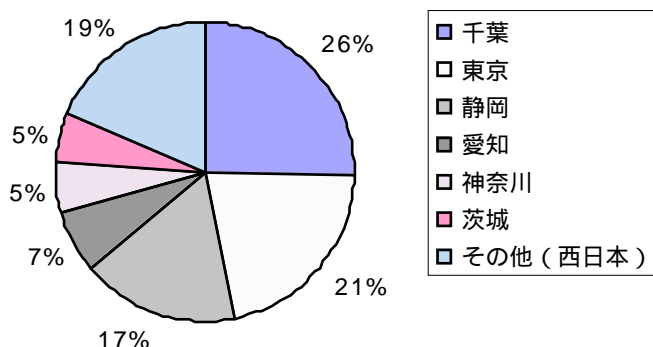
2. 海水浴場について

はじめに

日本の海水浴場の特徴について調べるために、今回の調査では最大 75 ヶ所のビーチデータを集計した。またデータを集計するにあたってグラフ・表の他に代表値として平均値と最頻値を採用した。さらに最小値 - 最大値、普及率（レスキュー器材のみ）なども記載するので参考にしていきたい。

最頻値 (Mode)：最も頻度の高いカテゴリー・階級・観測値・階級値のことを指す

2-1. ライフセーバーが活動する海水浴場（都道府県別）

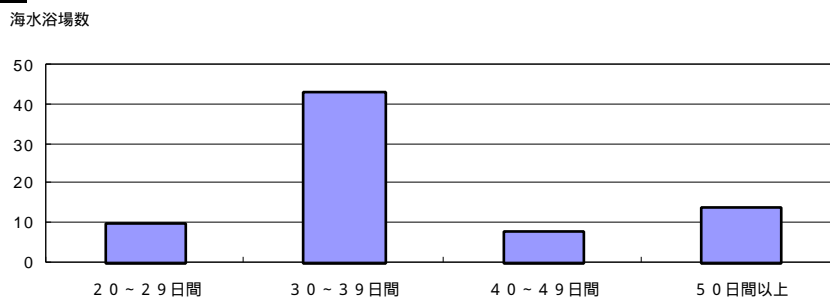


1. 都道府県別ライフセーバー管理海水浴場の割合（総数75カ所）

	千葉	東京	静岡	愛知	神奈川	茨城	その他（西日本）	計
度数	19	16	13	5	4	4	14	75

今回データがあげられた海水浴場のライフセービング活動量を 100% とすると、その内訳は東日本で約 80%、西日本で約 20% となっている。東日本では特に関東地域で活動が盛んである（約 50%）。

2-2. 海水浴場開設日数



2-1. 海水浴場開設日数

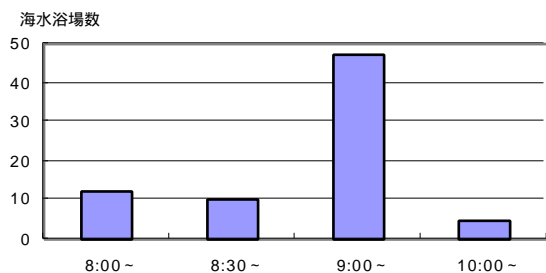
	20～29日間	30～39日間	40～49日間	50日間以上	計
度数	10	43	8	14	75
%	13	57	11	19	100

2-3. 平成 15 年の総入り込み数

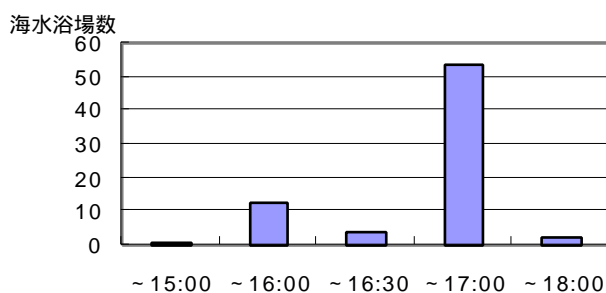
- ・ 総入り込み数：4,397,267 人（欠損値が多いため参考値）
- ・ 夏季における平均入り込み数（1 海水浴場あたり）：73,287 人



2-4.パトロール開始・終了時刻



4-1.パトロール開始時刻



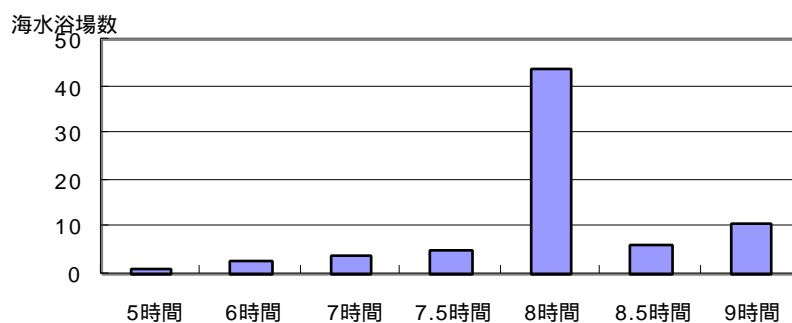
4-2.パトロール終了時刻

	8:00~	8:30~	9:00~	10:00~	計
度数	12	10	47	5	74
%	16	14	63	7	100

	~15:00	~16:00	~16:30	~17:00	~18:00	計
度数	1	13	4	54	2	74
%	1	18	5	74	2	100

パトロール開始 - 終了時間における Mode は 9:00-17:00 で全体の 51%となっていた。

2-5.1日のパトロール時間



5.1日のパトロール時間

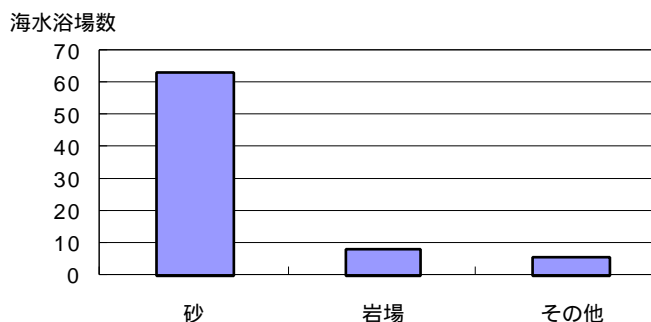
	5時間	6時間	7時間	7.5時間	8時間	8.5時間	9時間	計
度数	1	3	4	5	44	6	11	74
%	1	4	5	7	60	8	15	100

・平均：7.97 時間 ・Mode：8 時間 ・Min-Max：5 時間-9 時間

4 の Mode でもある 8 時間のパターンが圧倒的に多かった。ただし、地域によって最大 4 時間の差があることにも注目すべきである。

2-6.海水浴場のタイプ

	砂	岩場	その他	計
度数	63	8	4	75
%	84	11	5	100

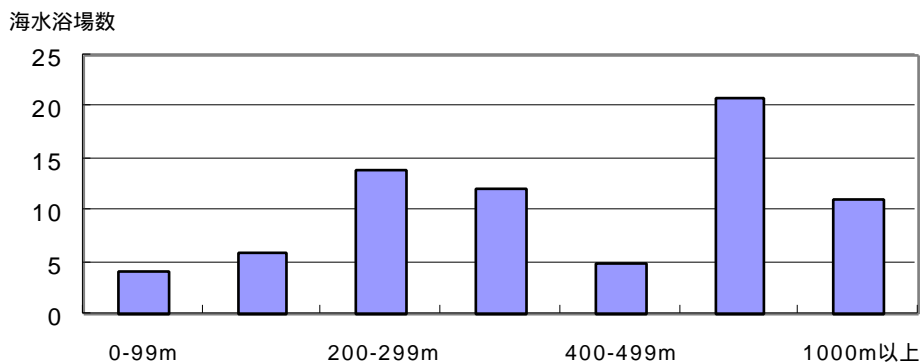


6.海水浴場のタイプ

海水浴場のタイプは 84%とほとんどが砂浜であった。またその他では砂 + 岩場などがみられた。



2-7.海水浴場・海岸線の長さ



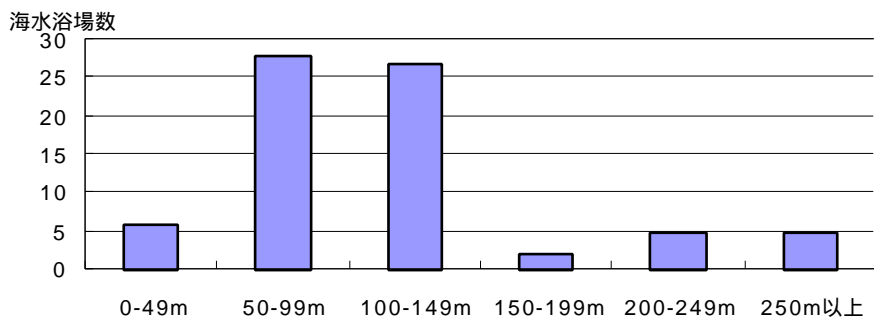
7. 海水浴場・海岸線の長さ

	0-99m	100-199m	200-299m	300-399m	400-499m	500-999m	1000m 以上	計
度数	4	6	14	12	5	21	11	73
%	5	9	19	16	7	29	15	100

・平均：523m ・Mode：200m ・Min-Max：20-3000m

海水浴場・海岸線の長さは地域によってばらつきがみられる。今回は 200-400m 辺りが最も多く、全体の 35% を占めている。ただ 1km 辺りの海水浴場数も 21% とかなりの数が存在する。大きく分けるとこの 2 つが代表的な長さとなっている。

2-8.海水浴場の奥行き・縦の長さ



8. 海水浴場の奥行き・縦の長さ

	0-49m	50-99m	100-149m	150-199m	200-249m	250m 以上	計
度数	6	28	27	2	5	5	73
%	8	38	37	3	7	7	100

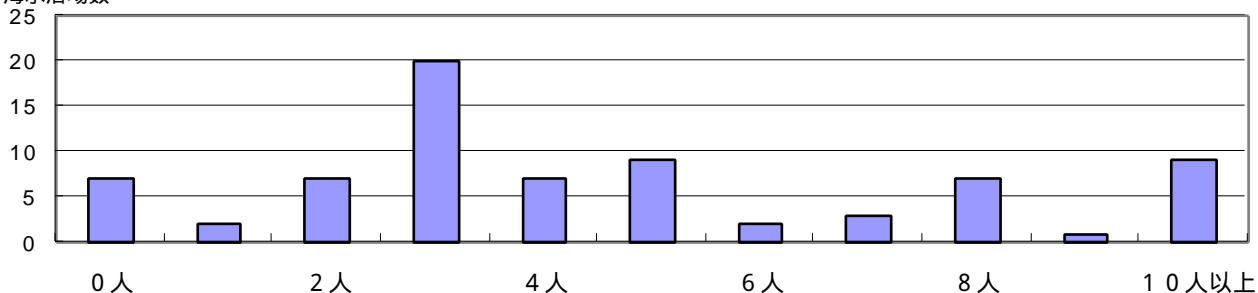
・平均：102m ・Mode：100m ・Min-Max：20-400m

奥行き・縦の長さについては 50-149m に 75% があてはまる。よって海岸線ほど海水浴場によってばらつきはないと考えられる。



2-9.ライフセーバーの配置人数

海水浴場数

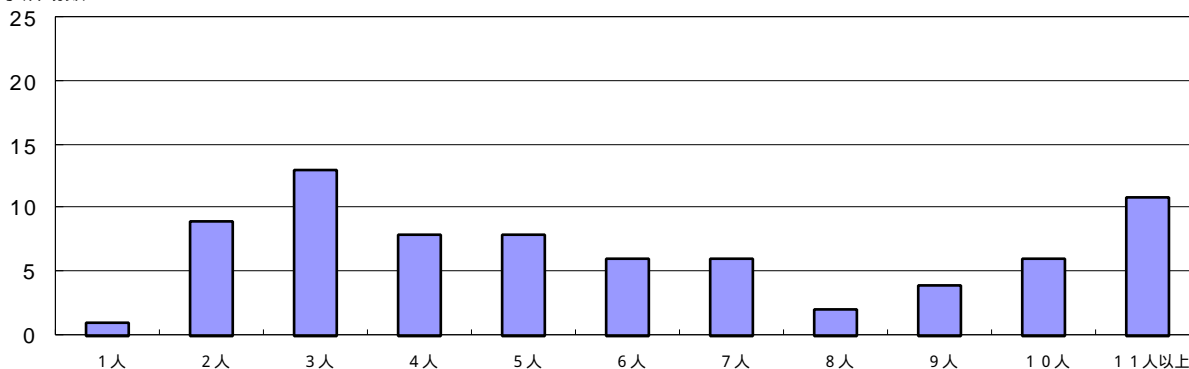


9-1. ライフセーバー配置人数(平日)

	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上	計
度数	7	2	7	20	7	9	2	3	7	1	9	74
%	9	3	9	27	9	13	3	4	9	1	13	100

・平均：5.02人 ・Mode：3人 ・Min-Max：0-25人

海水浴場数



9-2. ライフセーバー配置人数(休日)

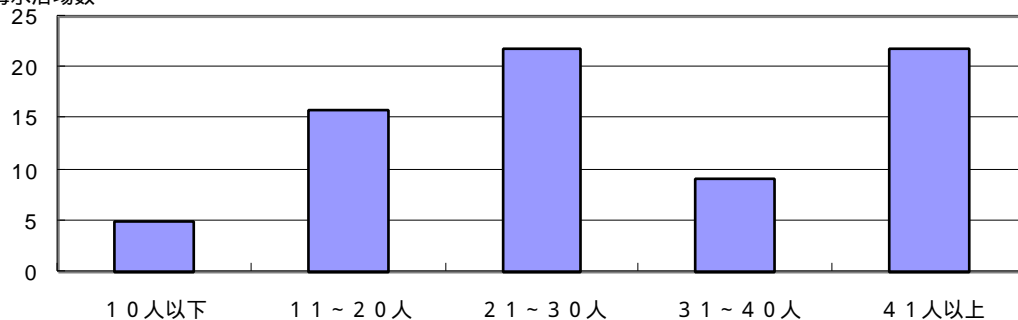
	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人以上	計
度数	1	9	13	8	8	6	6	2	4	6	11	74
%	1	13	17	11	11	8	8	3	5	8	15	100

・平均：6.87人 ・Mode：3人 ・Min-Max：1-35人

平日と休日を比較すると休日は平均配置人数が増えているが、Modeは変わっていない。これは海水浴場、もしくは海岸の長さによってライフセーバーが決められている事が要因として考えられる。またこれも3人前後と10人前後で2つのグループに分かれている。また平日はパトロールをせずに休日のみというケースが7ヶ所(9%)あった。



海水浴場数



9-3. 所属しているライフセーバー数

	10人以下	11～20人	21～30人	31～40人	41人以上	計
度数	5	16	22	9	22	74
%	7	21	30	12	30	100

・平均：34.72人 ・Mode：15人 ・Min-Max：5-95人

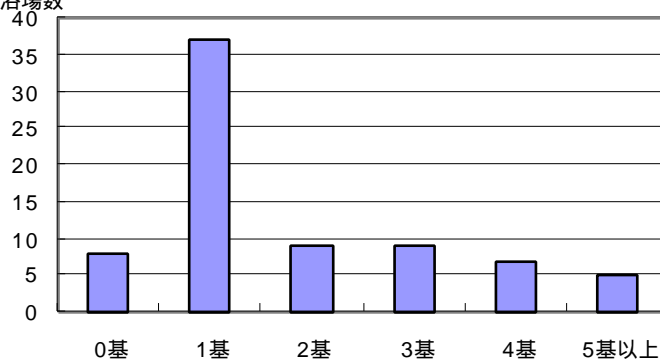
海水浴場に所属しているライフセーバー数には Min-Max でもわかるようにながりのばらつきがある。ここでも大きく2つグループに分けられる。

2-10. 監視塔数

	0基	1基	2基	3基	4基	5基以上	計
度数	8	37	9	9	7	5	75
%	11	49	12	12	9	7	100

- ・ 平均：1.84基
- ・ Mode：1基
- ・ Min-Max：0-7基
- ・ 普及率：89%

海水浴場数



10. 監視塔

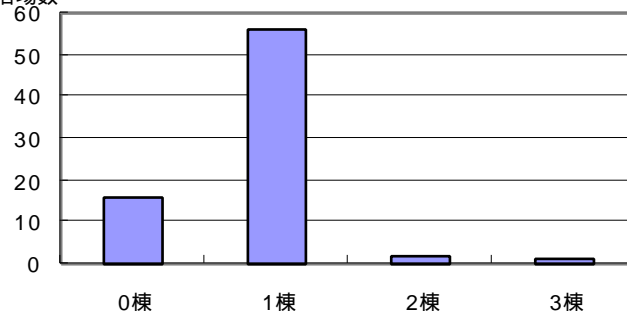
監視塔は1基だけのところが約半数を占める。また監視塔なしでパトロールを実施する海水浴場も8ヶ所(11%)あった。

2-11. 監視本部数

	0棟	1棟	2棟	3棟	計
度数	16	56	2	1	75
%	22	74	3	1	100

- ・ 平均：0.83基
- ・ Mode：1基
- ・ Min-Max：0-3基
- ・ 普及率：78%

海水浴場数



11. 監視本部

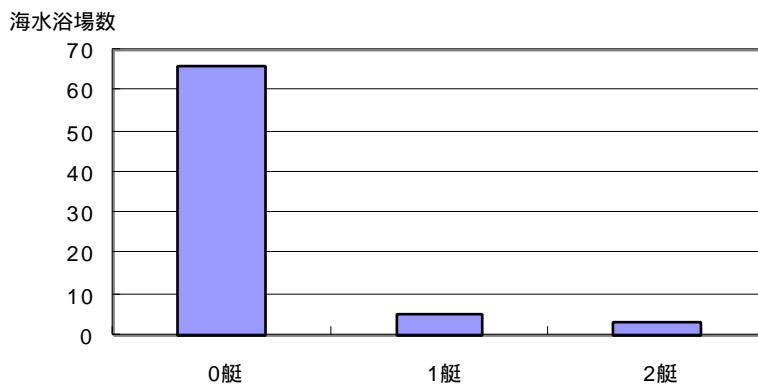
監視本部数は1基が74%と最も多く、使用している海水浴場が78%であった。しかしながら監視本部がない海水浴場も16ヶ所(22%)と意外に多かった。



2-12.IRB 数

	0艇	1艇	2艇	計
度数	66	5	3	74
%	89	7	4	100

- ・ 平均：0.15 艇
- ・ Mode：0 艇
- ・ Min-Max：0-2 艇
- ・ 普及率：11%



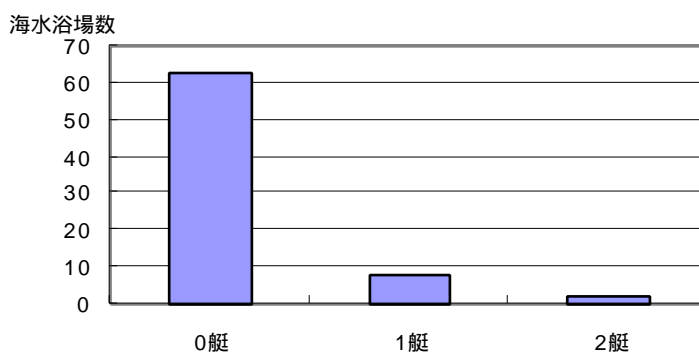
12.IRB

IRB を現段階で所有している海水浴場はほとんどないことが明らかになった。所有している海水浴場はわずかに全体の11%であった。

2-13.水上オートバイ

	0艇	1艇	2艇	計
度数	63	8	2	73
%	86	11	3	100

- ・ 平均：0.16 艇
- ・ Mode：0 艇
- ・ Min-Max：0-2 艇
- ・ 普及率：14%

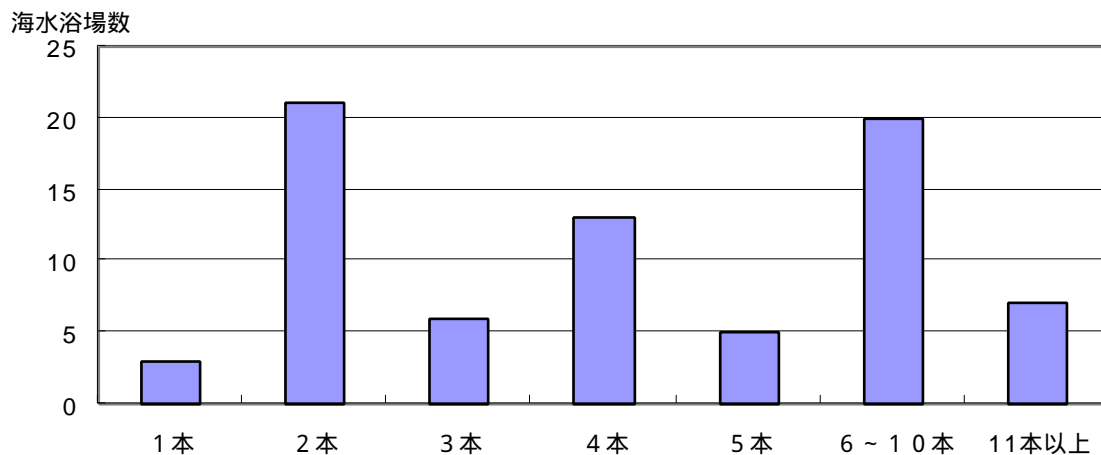


13.水上オートバイ

水上オートバイについても IRB とほぼ同じ状態であった。所有している海水浴場は全体の14%であり、わずかだがIRBよりも普及していることが示唆された。



2-14.レスキューチューブ数



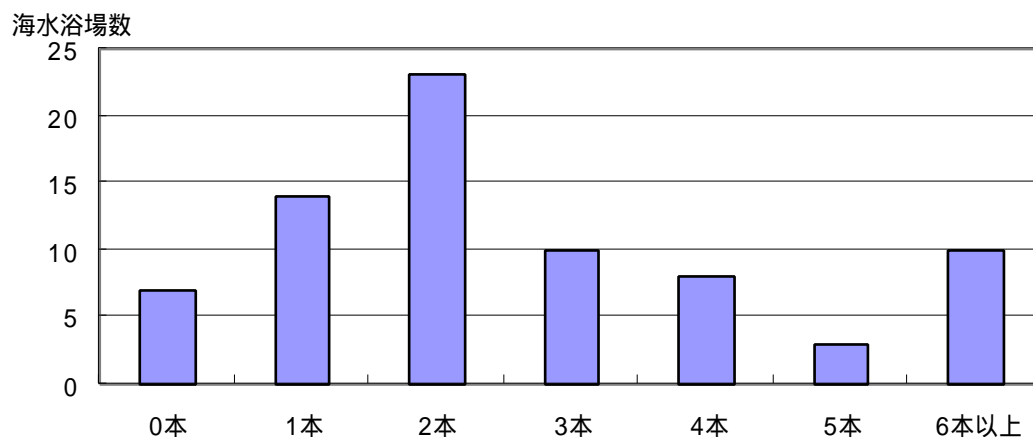
14.レスキューチューブ

- ・ 平均：5.38 本
- ・ Mode：2 本
- ・ Min-Max：1-20 本
- ・ 普及率：100%

	1本	2本	3本	4本	5本	6～10本	11本以上	計
度数	3	21	6	13	5	20	7	75
%	4	28	8	17	7	27	9	100

レスキューチューブは救助を安全・確実・迅速なものにするために欠かせないという認識の高さが伺えた。普及率も100%であった。しかしその所有数には海水浴場によってかなりの差があることもわかった。

2-15.レスキューボード数



15.レスキューボード

- ・ 平均：3.1 本
- ・ Mode：2 本
- ・ Min-Max：0-30 本
- ・ 普及率：91%

	0本	1本	2本	3本	4本	5本	6本以上	計
度数	7	14	23	10	8	3	10	75
%	9	20	31	13	11	4	12	100

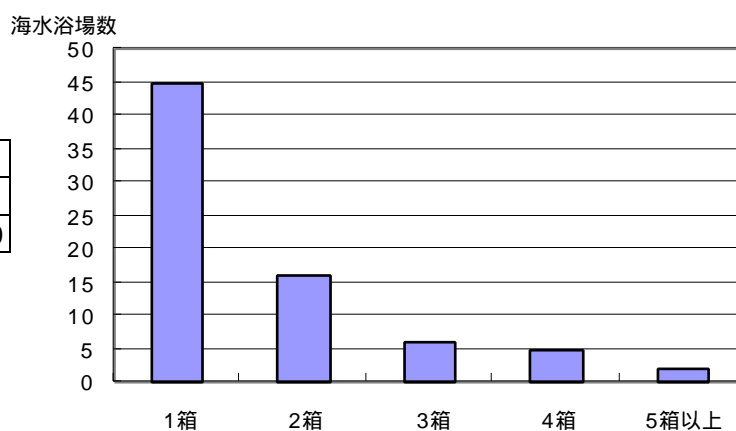
レスキューボードもレスキューチューブと同様に高い普及率を示したが、所有数にチューブ以上の開きがあった。



2-16.F Aボックス

	1箱	2箱	3箱	4箱	5箱以上	計
度数	45	16	6	5	2	74
%	61	21	8	7	3	100

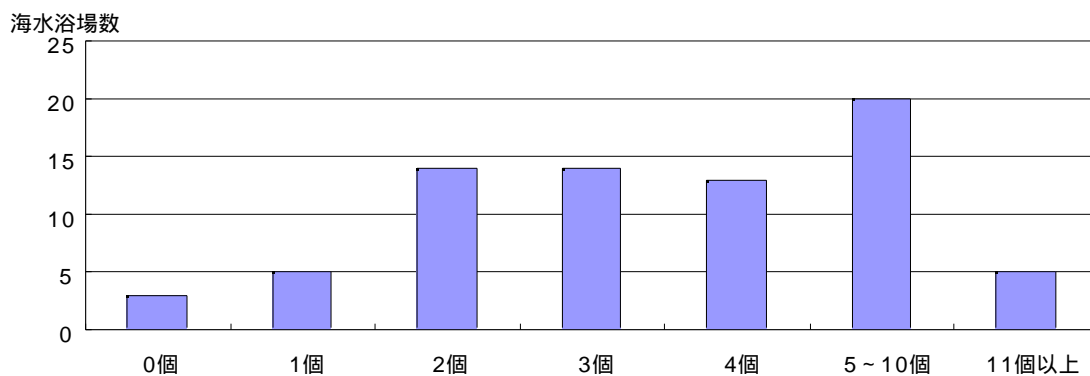
- ・ 平均：1.75 箱
- ・ Mode：1 箱
- ・ Min-Max：1-7 箱
- ・ 普及率：100%



16.FAボックス

FA ボックスはレスキューチューブと同様普及率 100%であった。ただ 1 箱だけが全体の 61%を占めているので、2ヶ所同時に FA が起こった際に問題が生じる可能性が示唆された。

2-17.無線



17.無線

- ・ 平均：4.87 個
- ・ Mode：2-3 個
- ・ Min-Max：0-30 個
- ・ 普及率：96%

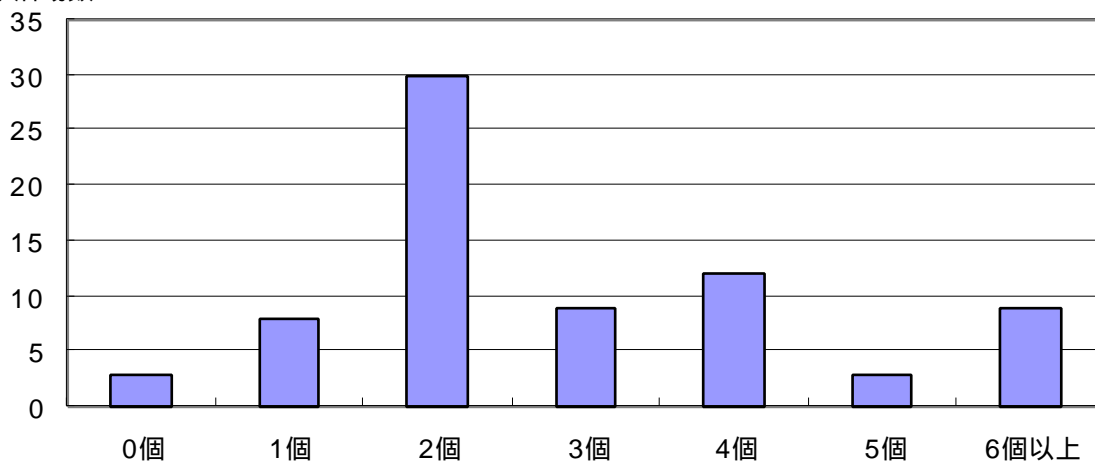
	0個	1個	2個	3個	4個	5~10個	11個以上	計
度数	3	5	14	14	13	20	5	74
%	4	7	19	19	17	27	7	100

無線は 2~4 個を使用している海水浴場が多い (55%)。普及率は 100%ではないが、ライフセーバー1人でパトロールしている浜があるようなので高いと考えられる。しかし、必要不可欠な海水浴場において個数にかなりの差があることも明らかとなった。



2-18. 双眼鏡

海水浴場数



18. 双眼鏡

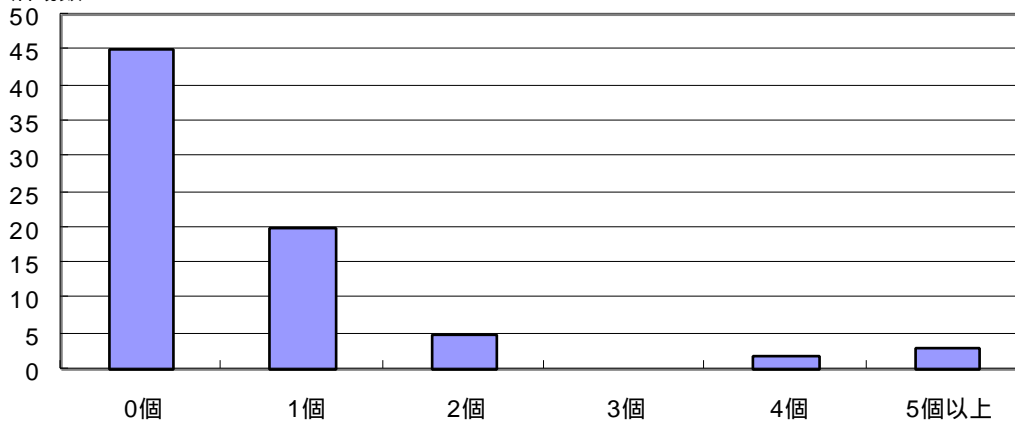
- ・ 平均：3.28 個
- ・ Mode：2 個
- ・ Min-Max：0-20 個
- ・ 普及率：96%

	0 個	1 個	2 個	3 個	4 個	5 個	6 個以上	計
度数	3	8	30	9	12	3	9	74
%	4	11	41	12	16	4	12	100

双眼鏡は3ヶ所で使われていないことが明らかとなった。

2-19. バグマスク・人工蘇生器

海水浴場数



19. バグマスク

- ・ 平均：0.81 個
- ・ Mode：0 個
- ・ Min-Max：0-11 個
- ・ 普及率：39%

	0 個	1 個	2 個	3 個	4 個	5 個以上	計
度数	45	20	5	0	2	3	75
%	61	26	7	0	3	3	100

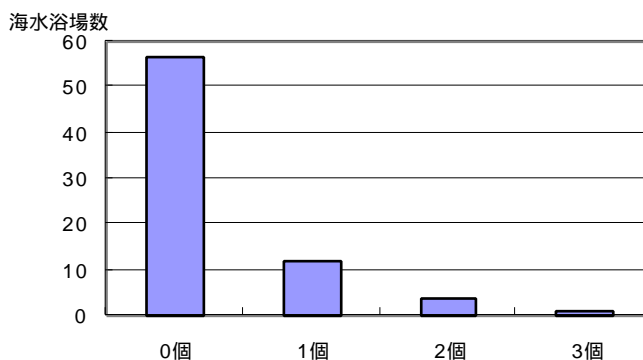
バグマスクの使用（普及）は海水浴場によってかなり差があることが明らかとなった。海水浴場の大部分（61%）が所有していないのが現状である。



2-20.酸素蘇生器

	0個	1個	2個	3個	計
度数	57	12	4	1	74
%	77	16	6	1	100

- ・ 平均：0.3 個
- ・ Mode：0 個
- ・ Min-Max：0-3 個
- ・ 普及率：23%

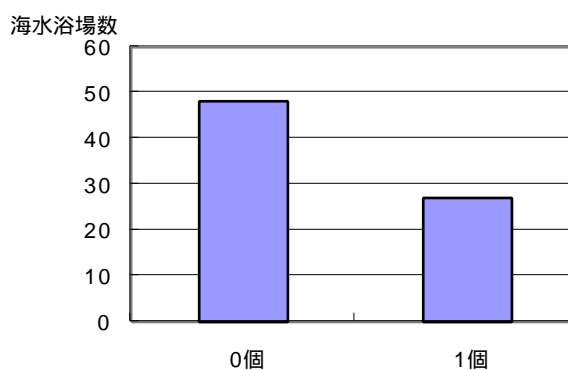


20. 酸素蘇生器

2-21.頸椎用バックボード

	0個	1個	計
度数	48	27	75
%	64	36	100

- ・ 平均：0.36 個
- ・ Mode：0 個
- ・ Min-Max：0-1 個
- ・ 普及率：36%

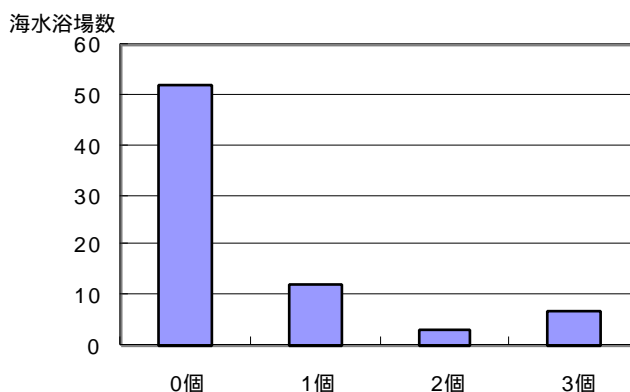


21. 頸椎用バックボード

2-22.頸椎カラー

	0個	1個	2個	3個	計
度数	52	12	3	7	74
%	70	16	4	10	100

- ・ 平均：0.51 個
- ・ Mode：0 個
- ・ Min-Max：0-3 個
- ・ 普及率：30%



22. 頸椎カラー

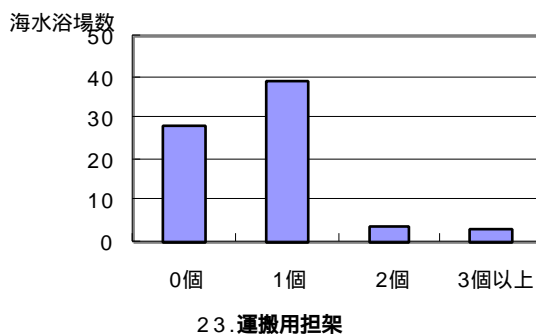
頸椎カラーとバックボードの普及率からバックボードのみを所有している海水浴場が4ヶ所あることが明らかになった。現段階では普及率は高くはないが、できる限り頸椎カラーとバックボードのセットで所有するようにした方がよい。



2-23.運搬用担架

	0個	1個	2個	3個以上	計
度数	28	39	4	3	74
%	38	53	5	4	100

- ・ 平均：0.79 個
- ・ Mode：1 個
- ・ Min-Max：0-6 個
- ・ 普及率：62%



運搬用担架とバックボードのどちらか一方のみを所有している海水浴場がいくつかあった。よって普及率はもう少し高いと考えられる。過半数の海水浴場において運搬用担架が所有されていることが明らかとなった。

まとめ

ライフセービング協会として全国的に日本の海水浴場の特徴を調査・集計するのは始めてということだったが、新たな発見がたくさんあった。特に共通の認識としてレスキューチューブとFAボックスに関しては協会が関与するどこの海水浴場でも所有していることが明らかになった。反対にそれ以外の救助器材は必ずしもないということも明らかとなった。そういった意味では今回のデータが非常に有益であったといえるだろう。

しかし、今回は全国の海水浴場における現状を全体的に集計したが、本来は規模の異なる海水浴場をみる際には、分けてみていかななくてはならないと強く思った。7の海水浴場・海岸線の長さでわかったが、今回のデータは200-400m規模の海水浴場データに左右されている。よって「ライフセービング教育」報告会ではもう少し細かくデータを分析し、各海水浴場の規模に適した現段階における実態に迫りたいと考えている。



3. レスキューの詳細について

レスキューの詳細については、日本ライフセービング協会に報告のあった全国 70 ヶ所の海水浴場からの集計結果 275 人をまとめたものである。(2003 年 11 月 7 日迄報告分)

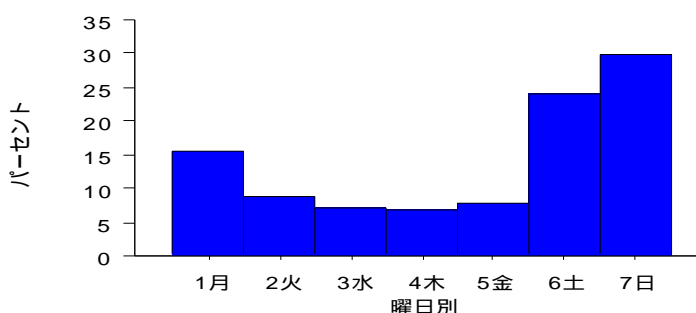
3-1. 曜日別レスキュー数について

曜日別にレスキュー発生数を見ると、日曜日が29.8%と最も多く、次いで、土曜日が24.0%、月曜日が15.6%となっていた。週末の土日を合わせると69.4%となり、週末に集中して発生していた。我が国では、週末や休日を利用してレジャーに参加する人が多く、そのため、入り込み数が週末に増加し、その影響を受けて、レスキュー数も増加していると考えられる。

レスキューは週末に多く発生している。

度数分布：曜日別

	度数	パーセント
1月	43	15.6
2火	24	8.7
3水	20	7.3
4木	19	6.9
5金	21	7.6
6土	66	24.0
7日	82	29.8
合計	275	100.0



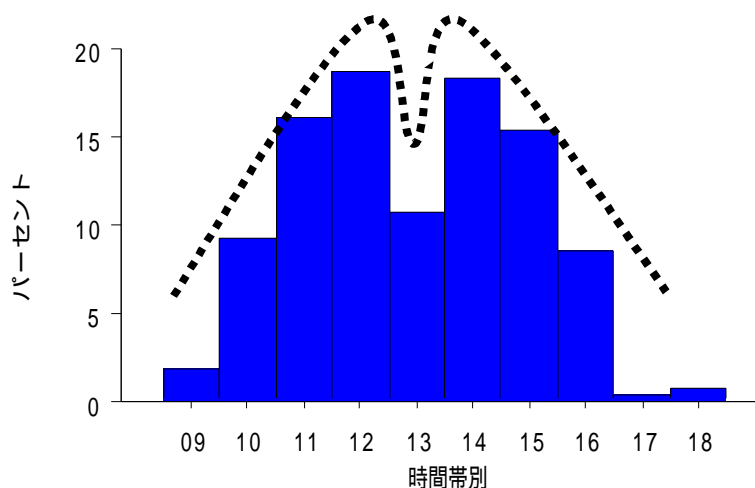
3-2. 時間帯別レスキュー数について

1時間ごとの時間帯別にレスキュー数を見ると、12時台が18.7%と最も多く、次いで、14時台が18.3%、11時台が16.0%、15時台が15.3%となっていた。11時～15時の時間帯においては、全体の79.1%を占めていた。しかし、13時台をみると10.8%とその前後の時間と比べておよそ半分ほどのレスキュー数となっていた。昼前後の時間帯に集中して発生しているものの、12時台は昼食のため陸上へ移動する者が多くレスキュー数が前後の時間帯と比べて少なかったと考えられる。また、昼前後の時間帯にレスキュー数が多いことは、入り込み数がお昼前後にピークをむかえ、気温水温の上昇とともに水中へ入りやすくなる影響を受けていると考えられる。

レスキューは13時前後2時間に数多く発生しているが、13時台は減少する。

度数分布：時間帯別

	度数	パーセント
09	5	1.9
10	25	9.3
11	43	16.0
12	50	18.7
13	29	10.8
14	49	18.3
15	41	15.3
16	23	8.6
17	1	.4
18	2	.7
合計	268	100.0





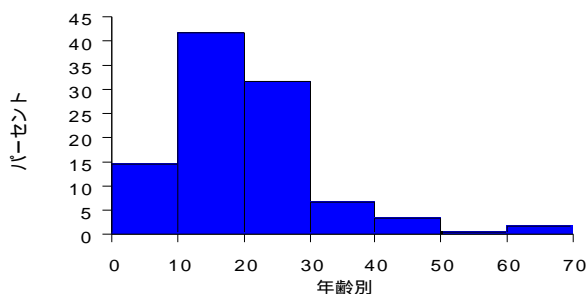
3-3. 年齢別レスキュー数について

年齢別にレスキュー数をみると、10代が41.6%と最も多く、次いで、20代が31.8%、10歳未満が14.7%となっていた。この10代、20代を合わせると73.4%を占め、ほとんどがこの年齢層で発生していた。海水浴に参加する人は10代～30代に多く、10～20代の発生数も多かったと考えられる。しかし、30代が少なかったのは、若者でみられるような無謀な行為を慎んでいることが考えられる。また、10歳未満にやや多く発生しているのは、子どもで事故を予防する能力が低く行動が活発であることが考えられる。

レスキューは10～20代に多く、親の監督が必要な子ども(10歳未満)でもやや多い。

度数分布：年齢別

下限(>=)	上限(<)	度数	パーセント
0.0	10.0	36	14.7
10.0	20.0	102	41.6
20.0	30.0	78	31.8
30.0	40.0	16	6.5
40.0	50.0	8	3.3
50.0	60.0	1	.4
60.0	70.0	4	1.6
	合計	245	100.0



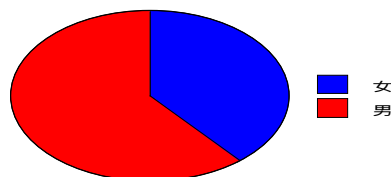
3-4. 性別レスキュー数について

性別にレスキュー数をみると、男性(60.9%)が女性(39.1%)よりも1.5倍多い。海水浴に参加する男性は女性よりも若干多いが、この割合はそれ以上に多いと考えられる。男性は女性よりも、行動範囲が広く、自己の能力を過大評価しやすい傾向があるからだと考えられる。

レスキューは女性より男性に多い。

度数分布：性別

	度数	パーセント
女	99	39.1
男	154	60.9
合計	253	100.0



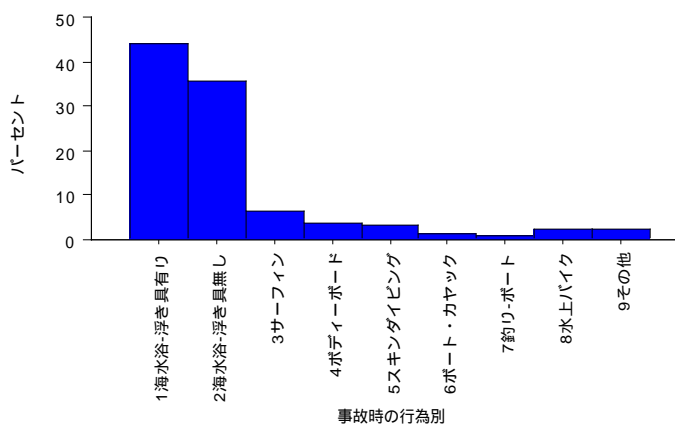
3-5. 事故時の行為別レスキュー数について

事故時の行為別にレスキュー数をみると、浮き具なしの海水浴が44.2%と最も多く、次いで、浮き具ありの海水浴が35.8%、サーフィン6.6%、ボディボード3.6%となっていた。海水浴は全体の80.0%を占めており、被救助者のほとんどが海水浴中であった。その他には、岩場などからの飛び込みや浮き台で遊んでいるなどがあげられていた。

レスキューは海水浴中にほとんど発生している。

度数分布：事故時の行為別

	度数	パーセント
1海水浴-浮き具有り	121	44.2
2海水浴-浮き具無し	98	35.8
3サーフィン	18	6.6
4ボディボード	10	3.6
5スキューバダイビング	9	3.3
6ボート・カヤック	4	1.5
7釣り-ボート	2	.7
8水上バイク	6	2.2
9その他	6	2.2
合計	274	100.0





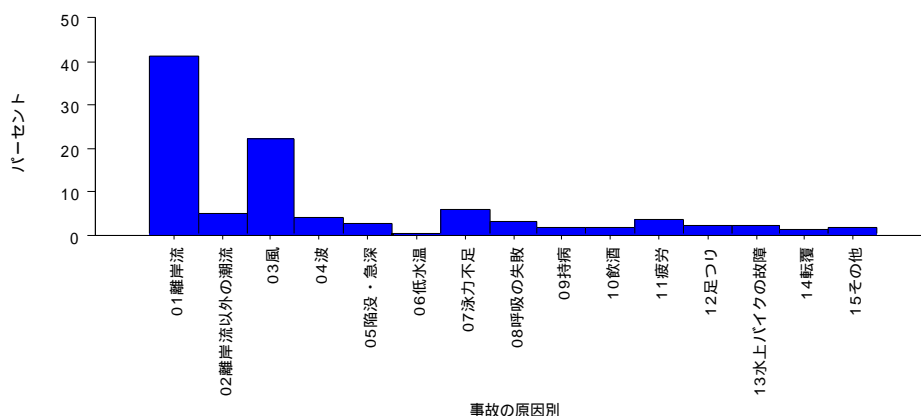
3-6. 原因別レスキュー数について

原因別にレスキュー数をみると、離岸流に流されたが41.2%と最も多く、次いで、風に流されたが22.1%、泳力不足が5.9%となっていた。離岸流や風、波といった自然環境が原因となっていたレスキューは、全体の75.7%を占めていた。また、被救助者自身に関係している原因(泳力不足、飲酒、持病など)は全体の18.7%で、決して多い割合ではないが、被救助者自身の意識次第で防止できる可能性をもった原因だと考えられる。水上バイクの故障や転覆など不慮のアクシデントも少数ながら報告された。

レスキューは自然環境が原因でほとんどが起きている。

度数分布：事故の原因別

	度数	パーセント
01離岸流	112	41.2
02離岸流以外の潮流	14	5.1
03風	60	22.1
04波	11	4.0
05陥没・急深	8	2.9
06低水温	1	.4
07泳力不足	16	5.9
08呼吸の失敗	9	3.3
09持病	5	1.8
10飲酒	5	1.8
11疲労	10	3.7
12足つり	6	2.2
13水上バイクの故障	6	2.2
14転覆	4	1.5
15その他	5	1.8
合計	272	100.0



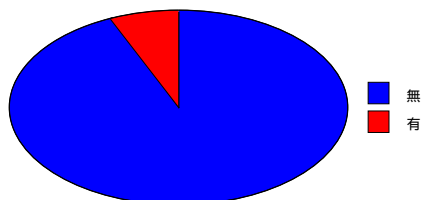
3-7. 被救助者の飲酒の有無について

飲酒について、被救助者の中の6.5%に飲酒が認められた。飲酒は運動能力や判断力の低下、能力の過信などによりレスキューを引き起こす可能性が考えられる。

飲酒は多くはないが要注意である。

度数分布：飲酒の有無

	度数	パーセント
無	246	93.5
有	17	6.5
合計	263	100.0



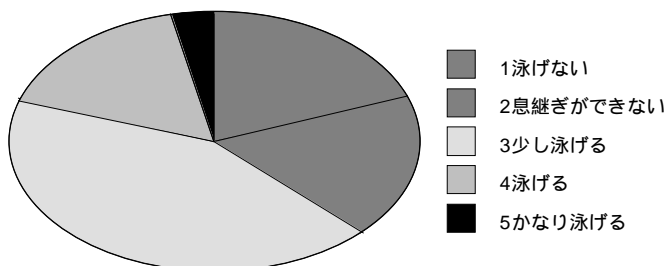
3-8. 被救助者の水泳能力について

被救助者の水泳能力について、少し泳げるが42.8%と最も多く、泳げない(19.3%)、息継ぎができない(18.1%)を合わせると80.2%を占めていた。ほとんどの被救助者は泳ぐことがあまり得意ではないことが推測される。また、泳げる(50-100m)とかなり泳げる(200m以上)者も19.8%おり、泳げる者も救助されていた。

レスキューは少し泳げる者に多い。

度数分布：泳力

	度数	パーセント
1泳げない	47	19.3
2息継ぎができない	44	18.1
3少し泳げる	104	42.8
4泳げる	40	16.5
5かなり泳げる	8	3.3
合計	243	100.0



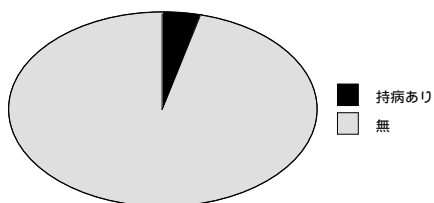


3-9. 被救助者の持病の有無について

被救助者の持病について、全体の 4.1%に持病ありと報告された。ほとんどの被救助者（95.5%）は持病がないことになるが、持病は重大事故へ繋がる可能性が考えられる。

度数分布：持病の有無

	度数	パーセント
持病あり	8	4.1
無	188	95.9
合計	196	100.0

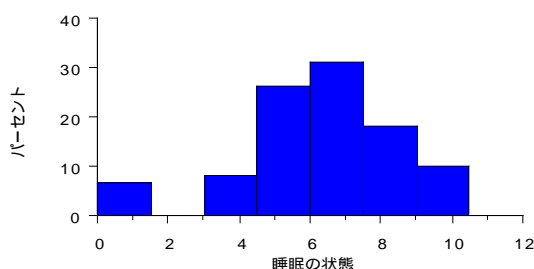


3-10. 被救助者の睡眠時間について

被救助者の睡眠時間について、全体の 58.1%の被救助者は 6 時間以上の睡眠をとっていた。しかし、ほとんど寝ていない者（1.5 時間未満）が 6.6%いることは忘れてはいけないだろう。

度数分布：睡眠の状態

下限 (>=)	上限 (<)	度数	パーセント
0.0	1.5	4	6.6
1.5	3.0	0	0.0
3.0	4.5	5	8.2
4.5	6.0	16	26.2
6.0	7.5	19	31.1
7.5	9.0	11	18.0
9.0	10.5	6	9.8
	合計	61	100.0



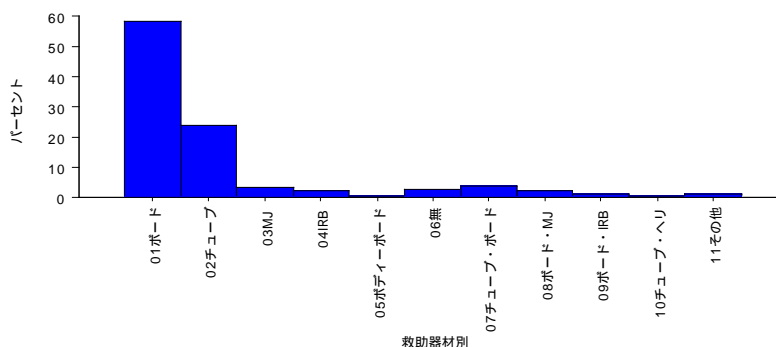
3-11. 救助器材別レスキュー数について

救助器材別にレスキュー数を見ると、ボードが 58.4%と最も多く、次いで、チューブが 24.2%、MJ（水上バイク）が 3.3%、IRB が 2.2%となっていた。器材を用いない場合が 2.6%あり、危険性を伴っていた可能性が考えられる。また、複数の器材を組み合わせて行う場合が 7.8%あった。1 人でレスキューを行っている場合は 75.1%とほとんどを占めているが、2 人以上の複数のライフセーバーが協力して行っている場合が 25.0%みられた。チューブにおいては、チューブを用いたレスキューの中、37.1%にフィンの使用がみられた。

器材を活用したレスキューが行われている。

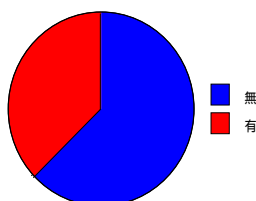
度数分布：救助器材別

	度数	パーセント
01ボード	157	58.4
02チューブ	65	24.2
03MJ	9	3.3
04IRB	6	2.2
05ボディーボード	1	.4
06無	7	2.6
07チューブ・ボード	11	4.1
08ボード・MJ	6	2.2
09ボード・IRB	3	1.1
10チューブ・ヘリ	1	.4
11その他	3	1.1
合計	269	100.0



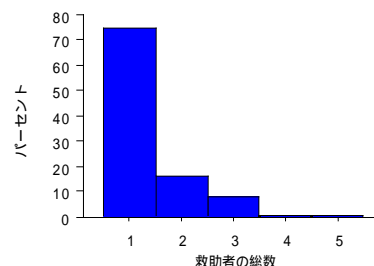
度数分布：チューブの場合のフィンの有無

	度数	パーセント
無	39	62.9
有	23	37.1
合計	62	100.0



度数分布：救助者の総数

	度数	パーセント
1	202	75.1
2	43	16.0
3	22	8.2
4	1	.4
5	1	.4
合計	269	100.0





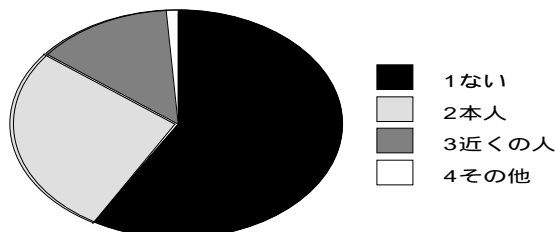
3-12. 救助の要請のサインについて

レスキュー時の救助の要請のサインについて、レスキュー全体の 58.6%において救助要請のサインはなかった。被救助者本人がなんらかの救助要請のサインを出すことができた場合は 27.1%、被救助者の近くにいた者がなんらかの救助要請のサインを出した場合は 13.2%であった。救助要請のサイン以外で、レスキューかどうか見分けなくてはならないことが考えられる。

救助要請のサインがないレスキューが多い。

度数分布：救助の要請の有無

	度数	パーセント
1ない	160	58.6
2本人	74	27.1
3近くの人	36	13.2
4その他	3	1.1
合計	273	100.0



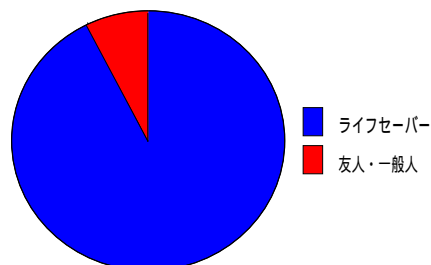
3-13. レスキュー時の第一発見者について

レスキュー時の第一発見者について、ライフセーバーが発見した場合は 92.5%でほとんどを占め、友人や近く一般人が発見した場合は 7.5%と少なかった。また、発見したライフセーバー歴は、1年目が 8.2%と最も少なかった。2年目以上では、20%前後をそれぞれ占めていることから、監視経験を積んだライフセーバーが早い段階でレスキューを発見していることが考えられる。

監視経験を積むことは早い段階でのレスキューの発見につながる。

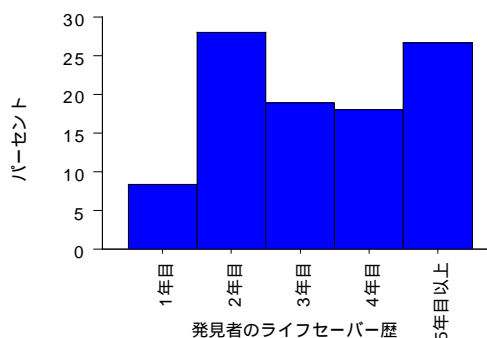
度数分布：第一発見者

	度数	パーセント
ライフセーバー	248	92.5
友人・一般人	20	7.5
合計	268	100.0



度数分布：発見者のライフセーバー歴

	度数	パーセント
1年目	20	8.2
2年目	68	28.0
3年目	46	18.9
4年目	44	18.1
5年目以上	65	26.7
合計	243	100.0





3-14. 距離別、水深別レスキュー数について

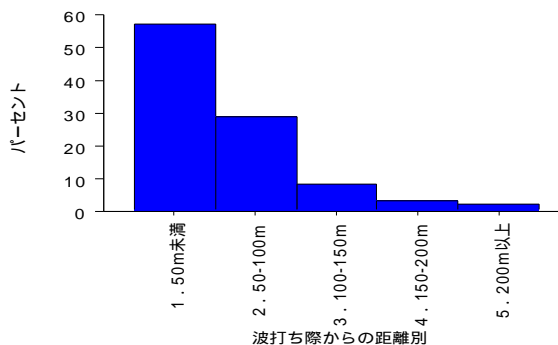
波打ち際からの距離別にレスキュー数をみると、50m未満が 57.2%と最も多く、次いで、50m以上 100m未満が 28.6%であった。100m未満で発生したレスキューは全体の 85.8%を占めていた。

波打ち際からの水深別にレスキュー数をみると、3.0m以上が 33.7%と最も多く、次いで、1.5m以上 2.0m未満が 22.5%、2.0m以上 2.5m未満が 17.2%となっていた。1.5m以上の足が届かない水深で特に高い割合となっていた。

レスキューは浜から近く足の届かないところで多く発生している。

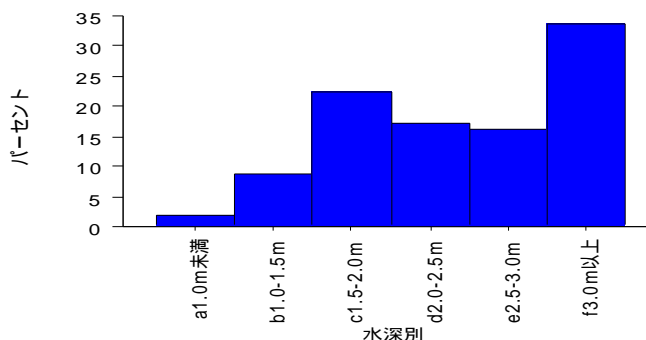
度数分布：波打ち際からの距離別

	度数	パーセント
1. 50m未満	154	57.2
2. 50-100m	77	28.6
3. 100-150m	23	8.6
4. 150-200m	9	3.3
5. 200m以上	6	2.2
合計	269	100.0



度数分布：水深別

	度数	パーセント
a1.0m未満	5	1.9
b1.0-1.5m	23	8.6
c1.5-2.0m	60	22.5
d2.0-2.5m	46	17.2
e2.5-3.0m	43	16.1
f3.0m以上	90	33.7
合計	267	100.0



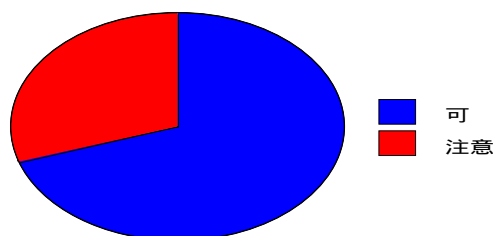
3-15. 遊泳条件別レスキュー数について

遊泳条件別にレスキュー数をみると、遊泳可の時は 70.1%でほとんどを占め、遊泳注意の時は 29.9%であった。また、遊泳禁止時のレスキューはなかった。このことは評価できることであろう。

レスキューは海が穏やかな時に多く発生している。

度数分布：遊泳条件別

	度数	パーセント
可	183	70.1
注意	78	29.9
合計	261	100.0





4. ファーストエイドの詳細について

ファーストエイドの詳細については、日本ライフセービング協会に報告のあった全国 64 ヶ所の海水浴場からの集計結果 1,345 人をまとめたものである。(2003 年 11 月 7 日迄報告分)ただし、傷害別ファーストエイド数に関しては、全国 137 ヶ所の海水浴場からの集計結果 11,208 人をまとめた。(2003 年 11 月 14 日迄報告分)

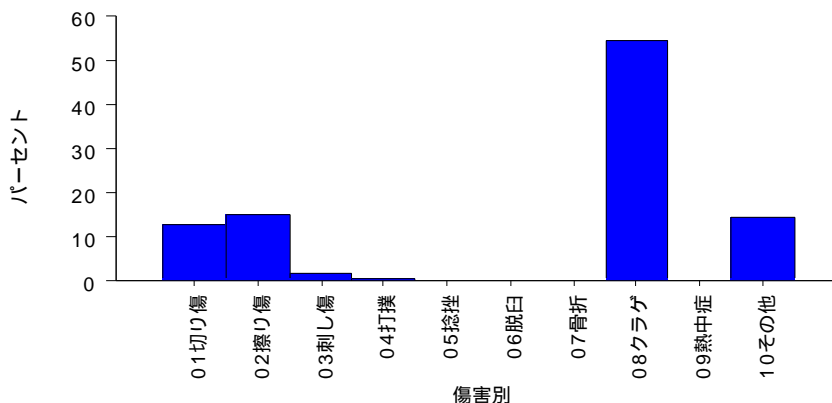
4-1. 傷害別ファーストエイド数について

傷害別にファーストエイド発生数をみると、クラゲが 54.4%と最も多く、次いで、擦り傷が 14.9%、切り傷が 13.0%となっていた。数は多くはないが、大きな傷害として頸椎損傷が 2 名報告されていた。その他の項目には、ウニ、エイ、オコゼなどの海の生物に刺されたものやとげ、虫さされ、じんましん、体調不良、腹痛、頭痛、鼻血、火傷などがみられた。

ファーストエイドのベスト3 はクラゲ、擦り傷、切り傷である。

度数分布：傷害別

	度数	パーセント
01切り傷	792	13.0
02擦り傷	909	14.9
03刺し傷	114	1.9
04打撲	37	.6
05捻挫	13	.2
06脱臼	14	.2
07骨折	1	1.6E-2
08クラゲ	3314	54.4
09熱中症	9	.1
10その他	891	14.6
合計	6094	100.0



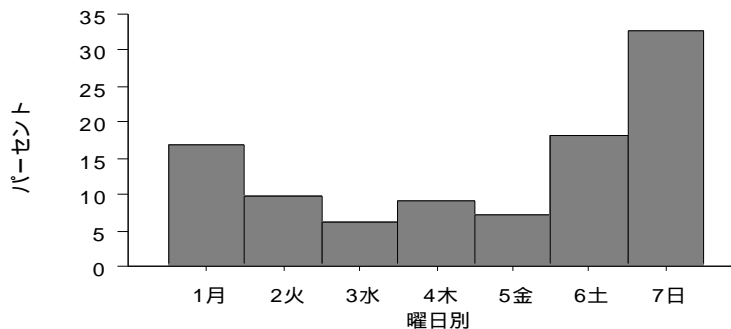
4-2. 曜日別ファーストエイド数について

曜日別にファーストエイド発生数をみると、日曜日が 32.8%と最も多く、次いで、土曜日が 18.1%、月曜日が 16.9%となっていた。週末の土日を合わせると 50.9%となり、半数が週末に発生していた。我が国では、週末や休日を利用してレジャーに参加する人が多く、そのため、入り込み数が週末に増加し、その影響を受けて、ファーストエイド発生数も増加していると考えられる。

ファーストエイドは週末に多く発生している。

度数分布：曜日別

	度数	パーセント
1月	227	16.9
2火	132	9.8
3水	83	6.2
4木	122	9.1
5金	96	7.1
6土	244	18.1
7日	441	32.8
合計	1345	100.0





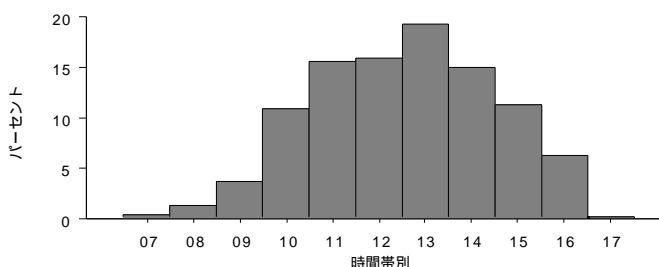
4-3. 時間帯別ファーストエイド数について

1時間ごとの時間帯別にファーストエイド発生数をみると、13時台が19.3%と最も多く、次いで、12時台が15.9%、11時台が15.6%、14時台が15.0%となっていた。11時～14時の時間帯はすべて15%を越えており、合わせると65.8%を占め、半数以上が昼前後の時間帯に発生していた。入り込み数がお昼前後にピークをむかえることの影響を受けていると考えられる。また、昼食のため水中から陸上へ行動範囲がかわり、ケガに気がつくまたは手当が受けやすいことも関連していると思われる。

ファーストエイドは昼前後(11時～14時)に多く発生している。

度数分布：時間帯別

	度数	パーセント
07	6	.5
08	18	1.4
09	48	3.6
10	144	10.9
11	207	15.6
12	211	15.9
13	255	19.3
14	199	15.0
15	149	11.3
16	83	6.3
17	3	.2
合計	1323	100.0



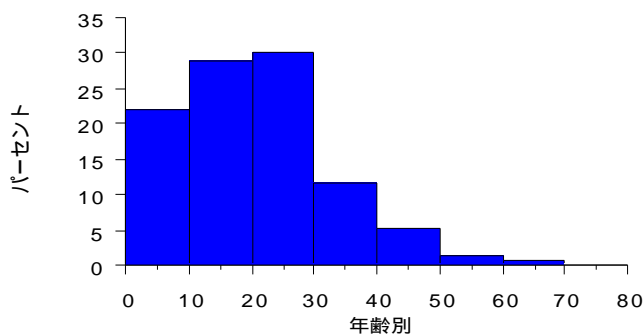
4-4. 年齢別ファーストエイド数について

年齢別にファーストエイド発生数をみると、20代が30.2%と最も多く、次いで、10代が29.0%、10歳未満が22.0%となっていた。この年代のすべてが20%を越えており、合わせると81.2%を占め、ほとんどがこの年齢層で発生していた。海水浴に参加する人は10代～30代に多く、10～20代の発生数も多かったと考えられる。しかし、10歳未満に多く発生しているのは、子どもでケガを予防する能力が低く行動が活発であることが考えられる。また、30代がやや少ないのは、十分ケガを予防する能力があり行動もそれほど活発でないことが考えられる。

ファーストエイドは10～20代に多く、親の監督が必要な子ども(10歳未満)にも多い。

度数分布：年齢別

下限(>=)	上限(<)	度数	パーセント
0.0	10.0	258	22.0
10.0	20.0	340	29.0
20.0	30.0	354	30.2
30.0	40.0	136	11.6
40.0	50.0	60	5.1
50.0	60.0	15	1.3
60.0	70.0	9	.8
70.0	80.0	1	.1
	合計	1173	100.0



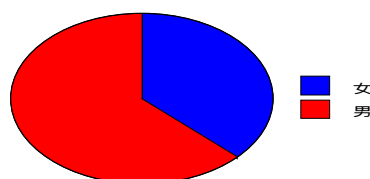
4-5. 性別ファーストエイド数について

性別にファーストエイド発生数をみると、男性(63.0%)が女性(37.0%)よりも1.7倍多い。海水浴に参加する男性は女性よりも若干多いが、この値はそれ以上に多いと考えられる。男性は女性よりも、行動範囲が広く、自己の能力を過大評価しやすい傾向があるからだと考えられる。

ファーストエイドは女性より男性に多い。

度数分布：性別

	度数	パーセント
女	480	37.0
男	819	63.0
合計	1299	100.0





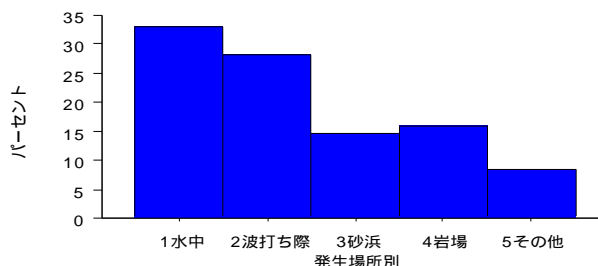
4-6. 発生場所別ファーストエイド数について

発生場所別にファーストエイド発生数をみると、水中が33.2%と最も多く、次いで、波打ち際が28.2%、岩場が15.9%となっていた。水中と波打ち際を合わせると61.4%を占めていた。また、場所ごとに特有の傷害が発生していることが考えられる。

ファーストエイドは水中、波打ち際で多く発生している。

度数分布：発生場所別

	度数	パーセント
1水中	438	33.2
2波打ち際	372	28.2
3砂浜	191	14.5
4岩場	210	15.9
5その他	110	8.3
合計	1321	100.0



4-7. 部位別ファーストエイド数について

傷害のあった部位別にファーストエイド発生数をみると、足が41.5%と最も多く、次いで、手が9.5%、膝が7.7%となっていた。上腕～手指と大腿～足指の四肢を合わせると、82.2%を占めた。

ファーストエイドの傷害部位は四肢がほとんどである。

度数分布：部位別

	度数	パーセント
01頭部	24	1.8
02顔面	41	3.1
03眼	6	.5
04鼻	11	.8
05耳	2	.2
06歯	2	.2
07首	28	2.1
08肩	18	1.4
09胸	12	.9
10背	13	1.0
11腰	27	2.0
12膝	6	.5
13尻	1	.1
14その他	5	.4
15陰部	6	.5
16大腿	53	4.0
17膝	102	7.7
18下腿	63	4.8
19足首	37	2.8
20足	547	41.5
21上腕	56	4.2
22肘	19	1.4
23前腕	33	2.5
24手首	6	.5
25手	125	9.5
26つめ(手/足)	8	.6
27下腿	8	.6
28上腿	12	.9
29四肢	18	1.4
30上半身	6	.5
31全身	8	.6
32その他	14	1.1
四肢	1	.1
合計	1318	100.0

